

2 学期終業式 校長講和

2019. 12. 26

暦の上で大雪を過ぎる頃から、木々もあらかた葉を落とし、いよいよ厳しい冬の到来を身近に感じるようになりました。師走の日々は忙しく年の瀬に向かいますが、この一年、学生の本分である「勉強」はどうでしたか。一人ひとりがしっかり振り返り、成果を新年に繋げたい。

今日は、10月26日に篠ノ井高校で全県の高校生対象に研修会を行なった、My Projectの長野サミットが、去る15日に開催されたのでその様子を紹介します。

皆さんはNPO法人カタリバという組織を知っていますか。現在、中央教育審議会委員、東京オリンピック組織委員として活躍している今村久美さんは、PBLの先進学部である慶應義塾大学SFCに在学中、高校生のためのキャリア学習プログラムの開発に取り組みました。彼女は『高校生が大学生など「ナナメの関係」にある少し年上の先輩と協働することで、将来について考え主体性を育むきっかけをつかめるのでは』と考え、2001年に学生起業組織カタリバを立ち上げました。

現在、カタリバは「身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを起こし、実行することを通して学ぶ、実践型探究学習プログラム」を提供しており、このプログラムの学びの発表会が「マイプロジェクトアワード」です。現在、3月の全国サミット出場者の予選を兼ねて、日本の各地域で「地域サミット」が行われています。

長野県では、今年初めて県教育委員会が主催となって開催しました。私は校長会選出の審査員という立場で、篠ノ井高校から出場した2年生の2グループの皆さんと一緒に参加しました。高校生たちは前日から合宿形式でプレゼンテーションをブラッシュアップしており、29本のどの発表も彼らの等身大の姿と熱を感じるものばかりでした。

実は昨年、クリスマスの日に東京大会に招かれたのですが、今回の長野大会は、グローバルプロジェクト化し、高校生起業家が登場する東京の雰囲気とは随分違い、「長野県の高校の探究学習はどんなことが行われているのか」が垣間見える、ピュアで素朴な作りだったと思います。

やや乱暴な分類ではありますが、おおまかに以下の3タイプの発表がありました。

①自らの興味に基づいてプロジェクト活動を行っているもの

特に高校魅力化プロジェクトを行っている学校という印象でしたが、特徴は、実際に地域に出て探究活動していることです。学習というよりは、実践をメインとするもの。部活動での取り組みもありました。実践を伴うことで、学び・成長の可能性をとても感じました。

②個人単位の探究・研究活動

教育課程内（授業）で行われている学習がベースになっている活動。主に個人の興味・関心に基づいて調べたり実際に地域で活動したり、というものです。来年度からの「総合的

な探究の時間」は、おそらくこういう方向なのだろうなと思うのですが、いかに調べ学習に終わらせないかが課題だと感じました。一方で、好きなことをとことん極めることによるキャリア開発の結果として、大学進学への可能性の広がりがたくさんあります。

③専門高校を中心とした課題研究

実際にロボットなどを企画して製作する学習についての発表もいくつかありました。おそらく、これまで当たり前に行われてきたものだと思いますが、実際に物を作る過程での試行錯誤や発想など、専門高校の強みやおもしろさが伝わる発表でした。高校生自身の学びの幅も本当に大きかったです。

本来のマイプロジェクトの評価基準から見ると「評価しづらいなー」と感じる部分もありました。しかし、おそらくこれは、県教育委員会主催という形で募集したことで多様性が広がり、目指す人材像が決してひとつでなくともいいということが見えた、良い面なのではないかと感じました。

また、「長野県の高校って、もともとこういう雰囲気だったなー」という変わらない伝統やバックグラウンドを感じるところもありました。学校のタイプにもよるかもしれません、「自主・自律」「自由・自治」の風土は共通してあると思います。こういう部分は、長野県の良さや強さなんじゃないかと、客観的に確認できる場でもありました。来年度以降も、長野県で地域サミットを企画します。篠ノ井高校から My Project に挑戦する生徒が、沢山になってほしいと願っています。

さて、最後になりますが、時間を積み重ねしっかり学んできた3年生の皆さんには、新年早々にここまで 基礎的・教養的な学力をみるセンター試験があります。どうか、自分の力をきちんと答案に表現出来るよう、最後まで全力を尽くして、合格を手にして欲しいと心から願っています。